

第 21 回佐久新校再編実施計画懇話会

日時：令和 6 年 9 月 5 日（木）
午後 6 時から午後 7 時 30 分
会場：長野県佐久合同庁舎講堂

<次 第>

1 開 会

2 挨拶

3 新構成員自己紹介

4 会議事項

(1) 第 20 回佐久新校再編実施計画懇話会まとめについて

(2) 校地拡張について

(3) 新校の学びに関する事務局検討事項について

(4) 校名選考について（事例紹介）

5 その他

第 22 回佐久新校再編実施計画懇話会について

【日時】 令和 6 年 10 月上旬の実施で調整

【会場】 現在調整中

6 閉 会

佐久新校再編実施計画懇話会 構成員名簿

○ = 新構成員

区分	氏名	所属等
自治体	1 畠山 啓二	佐久市 副市長
	2 吉岡 道明	佐久市教育委員会 教育長
	3 油井 敏弘	南佐久郡町村教育委員会連絡協議会 会長
産業界	4 坂川 和志	佐久商工会議所 副会頭
	5 渡辺 仁	佐久総合病院 統括院長
	6 白鳥 敬日瑚	マイクロストーン株式会社 代表取締役社長
学識 経験者	7 坂江 千寿子	佐久大学 学長
地域	8 廣末 恵子	社会医療法人恵仁会 医師
	9 原 啓明	佐久地域振興局 局長
同窓会	10 吉岡 徹	野沢北高等学校同窓会 会長
	11 長田 芳子	野沢南高等学校同窓会 会長
PTA	12 ○片桐 美和子	野沢北高等学校PTA 会長
	13 ○掛川 勉	野沢南高等学校PTA 会長
	14 竹内 由貴	全佐久PTA連合会 会長
学校 関係者	15 ○小林 秀樹	佐久中学校長会 会長
	16 ○高橋 幸彦	佐久小学校長会 会長
再編 対象校	17 嵯峨 優空	野沢北高等学校 生徒会長
	18 林 広陽	野沢北高等学校 生徒会副会長
	19 木内 あかり	野沢北高等学校 生徒会副会長
	20 佐藤 佳乃	野沢南高等学校 生徒会長
	21 川本 舞	野沢南高等学校 生徒会副会長
	22 西澤 克弥	野沢南高等学校 生徒会副会長
	23 柳沢 敬	野沢北高等学校 校長
	24 山下 純一	野沢北高等学校 教諭
	25 中村 信秋	野沢南高等学校 校長
	26 臼田 賢治	野沢南高等学校 教諭

事務局

○ = 新事務局員

野沢北高等学校		野沢南高等学校		高校再編推進室	
田中 聡	(教頭)・事務局長	橋爪 俊彦	(全・教頭)・副事務局長	井出 敦	主幹指導主事
山下 純一		清水 徹	(定・教頭)	土橋 邦彦	主任指導主事 (佐久新校担当)
澤田 浩文		臼田 賢治		有坂 清明	主任指導主事 (佐久新校副担当)
赤羽根 弦		林 直孝			
清水 貴弘		成田 明			
		山口 達之			

第 20 回 佐久新校再編実施計画懇話会まとめ(案)

日時	令和 6 年 (2024 年) 4 月 23 日 (火) 18 時 00 分～19 時 25 分
場所	長野県佐久合同庁舎 講堂
出席 (敬称略)	畠山啓二, 吉岡道明, 油井敏弘, 坂川和志, 渡辺仁, 白鳥敬日瑚, 坂江千寿子, 廣末恵子 原啓明, 吉岡徹, 長田芳子, 山越あゆみ, 竹内由貴, 木内あかり, 佐藤佳乃, 川本舞 西澤克弥, 柳沢敬, 山下純一, 中村信秋, 白田賢治 以上 21 名
傍聴者	24 名 (内報道 1 名: 信濃毎日新聞)
事務局	野沢北高校: 田中教頭 (事務局長), 澤田教諭, 赤羽根教諭, 清水教諭 野沢南高校: 橋爪教頭 (副事務局長), 清水教諭, 林教諭, 成田教諭, 山口教諭 県教育委員会: 佐野室長, 小林企画幹, 井出主幹指導主事, 土橋主任指導主事
当日資料	次第, 第 19 回懇話会まとめ, 旧第 5・6 通学区中学校卒業生数およびクラス数の推移 施設整備基本計画について, ワークショップ報告書

会議事項

- (1) 第 19 回佐久新校再編実施計画懇話会まとめ
- (2) 施設整備基本計画策定について
- (3) 検討項目の整理
・基本計画について
- (4) ワークショップの報告

主な内容(要旨) →県教委回答

- (1) 第 19 回佐久新校再編実施計画懇話会まとめ

事務局から説明。

- (2) 施設整備基本計画策定について

高校再編推進室から以下 4 点を説明。

- ① 校地拡幅の必要性和施設整備について切り離して考えるのではなく、一体として検討していく。
- ② プロポーザル時の条件は決まっていることではなく、施設整備基本計画策定の中で様々な条件を県教委が決定していく。その中で、活用できるものは活用していくコンセプトのもと、大体育館、特別教室棟、音楽室棟を活用していきたいと考えている。
- ③ 校地拡幅が必要であると判断した場合、校舎配置の変更の可能性を含めて設計チームとも相談していく。校地拡幅の必要性の検討にあたっては、学びの観点に加え生徒や教職員の安全性、交通の利便性、避難所の機能等を含めて検討する。
- ④ 高校教育課内でより一層意思疎通を図り、教育委員会全体で真摯に取り組んでいく。

- (3) 検討項目の整理

<基本計画について>

高校教育課施設係から施設整備基本計画の目的、基本計画策定後の流れ、計画段階で決定した事項の変更について資料を用いて説明。

(質疑)

- ・開校年度へ影響がないように今後のスケジュールをきちんと進めていく必要がある。
→知事部局との調整やいろいろな調査等も必要になるが、より早く、スケジュール感を持って進めていく。
ただし、開校時に竣工しているかについては、ずれる可能性がある。
- ・校地拡幅と基本計画を一体で考えるということは校舎配置に影響があると捉えてよいか。
→最善の配置とするために設計チームにもう一度考えてもらうこともある。ただ、結果的に同じような配置になることもあるかもしれないし、多少ゆとりができるなど変わる可能性もある。
- ・上記 4 点の説明を佐久新校創設推進協議会からの要望書と提案書の答えと考えてよいか。
→協議会には改めて回答する。協議会にも参加しながら、情報を提供していく。
- ・野沢南高校の跡地利用について懇話会で話題とするのか。
→話題にするかどうか今後相談していく。

- ・意見を出し合いながら進めていくことが大事で、この先も一步一步進めてもらいたい。
 - ・一つの目標に向かって、全員が共通理解を持っていくことをお願いしたい。
 - ・議論の上で、それぞれの立場や状況による発言が噛み合ってなく、そのため信頼感が醸成されなかった。やはりこれはできるがこれは難しいなど明確にして情報を共有して進めていかないといけない。
→お互いに情報を共有し、理解して議論していく。納得をした上で、一つずつ積み重ねていくことが大切だと考えている。生徒の皆さんからも意見をもらい、広い視野・視点で捉えながら検証したい。
- (座長から) 本日説明した4点について、文書で次回確認してほしい。

<開校年度について>

高校再編推進室から資料を基に説明。

開校は令和11年度、開校時には全日制8学級程度、定時制1学級として議会同意を得ており、今後の生徒数の減少も考慮すると、守っていききたい。ただし、現野沢北高校生の学びや安全性に配慮した工事スケジュールとするため、校舎の一部は未竣工の状況での開校となる。

(質疑)

- ・施設整備基本計画を6月までに策定するのではなく同意を得ながら進めることは良いが、開校年度にその影響が出ないようにスケジュール感を持ってしっかりやってほしい。開校時は8クラスということでよいか。
→最終的なクラス数、募集定員決定は、前年度の入学者募集要項によるため現段階で確定ではない。
- ・令和11年度開校となると対象は小学何年生になるか。
→現在の小学5年生となる。

(座長から) 開校年度の入学生について、文書で次回確認してほしい。

(4) ワークショップの報告

設計チームからの説明の概要。

- ・地域ワークショップでは、「新校が目指す地域連携の学び」について議論した。
「宇宙や医療、水資源について探究のテーマになるのではないか」「地域の人材を学校とマッチングできたらいいのではないか」「校舎を地域と繋がれるような形にすればいい」などの活発な意見交換がされた。
- ・生徒ワークショップでは、「学校の学びの空間」と「生活の空間」をテーマに議論した。
テーマは大きく、「普通教室周り」「メディアセンター」の二つとした。
生徒の皆さんのリアルな意見が多く出され、学びに対する意見もあれば、生活に関わるような話もあった。
- ・教職員ワークショップでは、佐久新校として「どういう空間があるべきか」について二つのテーマで議論した。
テーマは、「特別教室地域共創メディアセンターフロアについて」と「大職員室を含め執務空間、執務環境について」とした。
「下足で校舎に入っても良いのではないか」「一つの空間に異なる教科が散りばめられているような空間づくりをしたほうが良いのではないか」「相談ラウンジを大きくしてほしい」「プライバシー性の高い空間を配置してほしい」など様々な意見が出された。

(座長から) ワークショップに参加した生徒の皆さんの声を聞きたい。

- ・みんなで話す中で自分の意見にも変化が生まれ参加してよかった。
- ・考え方の違いや過ごしている環境が違う人と意見を交換できたのでとてもよかった。
- ・外国の学校の例を見ることができ、それを含めて野沢北校生と意見交換ができとても良い会であった。
- ・すごく素敵な意見が飛び交っていて、本当に良い会だなと思った。

その他

【次回】第21回懇話会

日程：令和6年6月頃の実施で調整

内容：現在検討中

第 20 回佐久新校再編実施計画懇話会で県教育委員会から示したこと

<施設整備基本計画策定について>

- ① 校地拡幅の必要性と施設整備について切り離して考えるのではなく、一体として検討していく。
- ② プロポーザル時の条件は決まっていることではなく、施設整備基本計画策定の中で様々な条件を県教委が決定していく。その中で、活用できるものは活用していくコンセプトのもと、大体育館、特別教室棟、音楽室棟を活用していきたいと考えている。
- ③ 校地拡幅が必要であると判断した場合、校舎配置の変更の可能性を含めて設計チームとも相談していく。校地拡幅の必要性の検討にあたっては、学びの観点に加え生徒や教職員の安全性、交通の利便性、避難所の機能等を含めて検討する。
- ④ 高校教育課内でより一層意思疎通を図り、教育委員会全体で真摯に取り組んでいく。

<開校年度について>

開校は令和 11 年度、開校時には全日制 8 学級程度、定時制 1 学級として議会同意を得ており、今後の生徒数の減少も考慮すると、守っていききたい。ただし、現野沢北高校生の学びや安全性に配慮した工事スケジュールとするため、校舎の一部は未竣工の状況での開校となる。

中学校卒業生数の予測と新校入学年度の対象学年について

(単位：人)

	2024年	2025年	2026年	2027年	2028年	2029年	2030年	2031年	2032年	2033年
	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15
6 区	1,813	1,783	1,846	1,748	1,743	1,807	1,712	1,697	1,646	1,610
前年度比増減	-12	-30	63	-98	-5	64	-95	-15	-51	-36
入学年度の 対象学年		中学校 3 年生	中学校 2 年生	中学校 1 年生	小学校 6 年生	小学校 5 年生	小学校 4 年生	小学校 3 年生	小学校 2 年生	小学校 1 年生

※2024 年度学校基本調査による数。

2025 年～2033 年は 2024 年度長野県人口異動調査（令和 6 年 4 月 1 日現在）による数。

小諸新校 校名募集の流れ(案)

高校再編推進室

長野県教育委員会

新校準備委員会

第1期高校再編時の校名選考の情報提供

選考の観点、選考方法の検討・原案作成

⑪懇話会(R4.5.16)

選考の観点、選考方法について意見交換

小諸新校「校名」募集要項(案)の作成

選考の観点、選考方法の再検討

⑫懇話会(R4.8.18)

小諸新校校名募集要項(案)について意見交換

小諸新校「校名」募集要項の決定

9月上旬~10月上旬

小諸新校「校名」募集の公募開始

応募された校名案の整理

懇話会構成員による【一次】投票

⑬懇話会(11月~12月)

公募結果の説明、校名案候補の一次選考

同名校、権利侵害等の調査

校名案候補 一次選考の整理

懇話会構成員による【二次】投票

⑭懇話会(1月~2月)

校名案候補の決定(最終選考)

同名校、権利侵害等の調査

再編対象校の校長から具申

R5年4月or5月

教育委員会定例会で校名案の決定

R7年11月

県議会11月定例会で正式決定

小諸新校 校名募集要項（案）【概要】

公募期間	1か月
選考の観点	①校名は「長野県 ～ 高等学校」とする。 ② <small>小諸商業高等学校と小諸高等学校の歴史や伝統を引き継ぎつつ、生徒たちが新たな学びに大きな希望を抱き、未来に向かって育っていくことができる学校像が表現されている。</small> ③「学科・教科横断型の学び」のできる普通科・商業科・音楽科が融合した学校として分かりやすい校名である。 ④「地域と連携した本物の学びに触れる」ことを進める学校として、地域の願いや期待が表出されている校名であること。
選考方法	校名選考にあたっては選考の進め方や方法、公募結果、選考結果を懇話会にて報告し、意見交換を行った上で実施する。 〔一次選考〕 ・ <u>公募結果を参考に構成員による一次投票を行う。</u> ・公募及び一次投票の結果を参考に懇話会で校名案を3案程度にしぼる。 ・校名案の再検討を含め、構成員からの案を二次投票の対象に加える。 〔最終選考〕 ・ <u>二次投票の対象となった校名案候補に対し、商標権等の調査を行う。</u> ・ <u>商標権等の調査結果を踏まえ、構成員による二次投票を行う。</u> ・ <u>商標権等の調査及び二次投票の結果を参考に懇話会で校名案候補を選考する。</u>
公募方法	①期間：令和4年9月9日 ～ 令和4年10月8日 ②内容：校名案と理由 ③方法：応募資格の制限はなく、郵便、FAX、電子メール、事務室への持参

令和8年4月開校

小諸新高校校名募集

新高校の概要

所在地：長野県小諸市田町三丁目1-1

(現在の小諸商業高等学校の校地)

学科構成：普通科・商業科・音楽科

小諸新校「校名」募集要項

1 目的

長野県小諸市に令和8年4月に開校する小諸新校（小諸商業高等学校と小諸高等学校の統合校）について、長野県教育委員会が進める「新たな学校づくり」に多くの皆様の参画を求めることを目的に、新校の校名を募集します。

2 募集内容

新高校の校名案（「長野県〇〇高等学校」とする。）

なお、所定の応募用紙にその校名とした理由を付記してください。

3 応募の留意点

以下を参考として応募してください。

【新校の概要】

(1) 学科構成：普通科・商業科・音楽科

(2) めざす学校像：地域を舞台に多様性を重視しグローバルな視点で未来を創造する3科融合校

(3) 所在地：長野県小諸市田町三丁目1-1（現在の小諸商業高等学校の校地）

【下線部をイメージして校名案を考えてください】

①小諸商業高等学校と小諸高等学校の歴史や伝統を引き継ぎつつ、生徒たちが新たな学びに大きな希望を抱き、未来に向かって育っていくことができる学校像。

②「学科・教科横断型の学び」のできる普通科・商業科・音楽科が融合した学校。

③「地域と連携した本物の学びに触れる」ことを進める学校として、地域の願いや期待が表出されている校名。

4 募集期間

令和4年9月9日（金）から令和4年10月8日（土）まで（郵送の場合、締め切り当日の消印有効）

5 応募資格

どなたでも応募できます。

6 応募方法

(1) 郵送またはFAXによる応募（応募用紙を使用してください。）

(2) はがきによる応募（下記の必要事項を記載してください。）

(3) 電子メールによる応募（下記の必要事項を記載してください。）

件名を【小諸新校の校名応募】としてください。

【必要事項】

①新高校の校名案（ふりがなを記入してください。）

②その校名とした理由

③住所（都道府県・市町村）・電話番号・氏名（匿名不可）

（団体で応募される場合は、団体名と代表者氏名を記入してください。）

* 必要事項を充たさない応募は選定の対象外とします。

7 選定方法

小諸新校再編実施計画懇話会での検討を踏まえ、県教育委員会において決定します。

8 結果の公表

県教育委員会ホームページ等で決定された校名案と応募者氏名を公表する予定です。

佐久新校(仮称)の学校像と学びについて(これまでの経緯と検討事項)

■第1回佐久新校再編実施計画懇話会(令和2年12月15日:以下懇話会と記述)

長野県教育委員会より「高校改革～夢に挑戦する学び～再編・整備計画【1次】」の説明

○探究的な学びについての意見交換 ○佐久新校に期待することの意見交換

→主体的、対話的な深い学びへの期待

佐久地域から医学部や有名難関大学への進学希望が叶えられる学校を期待する意見多数

■第2回懇話会

奈須正裕教授(上智大学)講演「これからの高校に期待される学力」→探究的学びの重要性

■第3回懇話会以降、

探究的な学びの実践例や両校からの発表「探究」について理解を深める

当時のプロジェクトチーム案に対し、期待される学校像、探究的学び、地域連携などの意見交換

■令和4年10月両校同窓会によるアンケートの実施

(回答数:小中学生116名・小中学校保護者838名・小中職員41名・一般73名)

◇小中学生保護者からの意見

- ・この地域の「公立」進学校が消滅しないよう、慎重に検討して欲しい。
- ・進学校と呼べる高校が東信、特に佐久地方は圧倒的に少ないと思います。上位大学を目指すとき、選択肢となるような高等学校が出来ることを希望します。
- ・私立や上田地区の高校に人が流れないようにして欲しい。
- ・両校を足して2で割った学校でなく、新時代を切り拓く人材を育てる新しいコンセプトの学校となるよう期待しています。
- ・新校は佐久地域の進学拠点となるようにしてほしい。 等

- ・地域の保護者からは進学(進路実現)に対する期待と不安についての意見をいただいた。懇話会でも、地域の進学校となる期待が多く寄せられた。
- ・当初、2学科(理数科、普通科)をたたき台として提案したが、どうしても合併というイメージが拭えず、一方が北高、一方が南高の流れと捉えられた。
- ・懇話会では、基礎学力の涵養と進学に対する学習をしっかり位置づけて欲しいと意見を多くいただく一方で、進学一辺倒ではなく、バランスの取れた全人的教育を望む意見もあり、文理融合型の教育課程を想定した新しい学校として、新しい普通科1学科3系統(特進なども考慮)を案とした。
- ・また、進学に必要な科目は全員で学ぶが、興味あるものの選択幅を広げるために進学重視型単位制の導入を案とした。
- ・令和5年度懇話会は、新しい普通科としての設置要件・他県での「新しい普通科」の例について、NSDプロジェクトによる校舎設計について、ワークショップの報告・校地について等が行われてきた。

■令和5年3月 募集開始令和11年度、野沢北高校の校地、8学級程度募集、学科名は募集前年度まで
 として県議会同意。

■第19回懇話会（令和6年3月）、県教育委員会は年次統合が適当との見解を発表。

◇これまでに地域の方（地元の住民、小中学校PTA等）から新校について寄せられた主な意見

- ・野沢北と野沢南を合併した学校になるのか。この場合どう授業を展開し、大学進学を保障するのか。
- ・新校を進学校にして欲しい。
- ・単位制（以前に議論された多部制単位制の単位制）でなく、「大学進学」に力を入れて欲しい。
- ・中高一貫を含めた、公立校での新たな学びも検討して欲しい。（両校同窓生からも） 等

課題：統合が「合併」と捉えられ、進学重視型単位制の「単位制」のみ取り出された。

■令和6年度 両校職員に改めて新校について検討案を示し、意見集約

（5月検討案・6月集約・7月両校職員会議・8月再編事務局で意見集約のまとめと今後について検討）

◇地域の方からの意見

- ・お金を掛けて私立や他地区へ通わなくて済む様に、佐久地域には進学体制の整った公立学校は絶対に必要、それを新校にしっかり位置づけて欲しい。
- ・理数科を残して欲しい。地域では理数科が難関大学進学として評価されている。
- ・理数科は、地元中学生の目標になっている。

◇両校職員からの意見

- ・地元から要望の多い理数科の存続を特色としてSTEAM教育につなげたらどうか。
- ・理数科の取り組みや課題研究を引き続き重視していくことで、地域のコンソーシアムや授業展開につなげやすい。理数科を活かしていくべき。
- ・進路実現、難関大学実現が見えやすくするためにも理数科を残すべき。
- ・理数科を発展させた形を考え、新校の地域における進学校としての立ち位置を明確に示すべき。
- ・新しい普通科にあっても理数科の流れを汲むコースなどがあっても良い。難関大学に積極的に挑戦する意欲を持つことで切磋琢磨する集団が作れるのではないか。
- ・現在、佐久地区14学級のうち、8学級規模とすれば、1学科での対応には無理がある 等

新校の学科について

これまで、難関大学進学にも対応できる「新しい普通科」1学科として考えて来ていたが、東信唯一の理数科存続を期待する意見も複数いただいた。地元で高い評価を得ている「理数科」の学びを発展させ、難関大学進学を実現する学科・コースの設置も含めて検討したい。

進学重視型単位制・教育課程について

現在、須坂高校、長野高校、屋代高校、松本深志高校などが進学重視型単位制を行っているが、全国の先進事例視察研究を継続し、新校へのスムーズな移行も視野に、導入に向けた研究を続けたい。

広報について

HPに新校のコーナーを立ち上げ、新校の進捗状況を伝えるための整備をしていきたい。また、PTA連合会で小中学校のPTA役員への説明を計画していきたい。